



ビタミン



nurse



看護学部長挨拶

看護学部長・教授 春山早苗

昨年からはまったコロナ禍は現在も続いています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により命を落とされた方々に謹んで哀悼の意を表します。

本学では、今年度も4月9日に入学生と教員のみにより縮小して入学式を執り行いました。しかし、栃木県の感染者数が落ち着いていることや、昨年度の経験から感染対策をしっかり行えば感染リスクを減らせることもわかりましたので、看護学部の授業は対面を基本に、必要時、遠隔によるものも取り入れながら行っています。実習も、現在のところ、3密を避けるなどの配慮を行いながら、実習施設において、予定通りの期間に行うことができます。感染対策としては、具体的には、マスクの着用、換気、手指消毒はもちろんのこと、教室の学生収容数をこれまでの半分にし、2つの教室を使って授業を行うことや、演習時にはマスクとフェイスシールドを併用する等のことを行っています。最も重要なことは一人ひとりが日々の健康観察を行い、看護学部の「学生生活の新たな指針」や大学で定めた部活及びサークル活動のルール等を守っていただくことですが、学生の皆さんがそれらを励行してくれていることに感謝しています。ワクチン接種も希望する学生の皆さん全員が7月の上旬までには2回接種を終える予定です。これらの甲斐あって、看護学部の学生及び教職員からは、今のところ、感染者が出ておりません。しかし、ワクチンの効果がどれほどであるかは明らかになっているとは言えませんし、わが国のCOVID-19のまん延状況から、注意していても感染する可能性がある状況は続いています。そのため、今後も気を緩めることなく感染対策の徹底を図っていくとともに、万が一、感染者が発生した場合には、学生の皆さんの健康と生活への影響が大きくならないよう備えていきたいと思えます。

本学では、令和元（2019）年度に「自己点検・評価」を実施し、令和2（2020）年度に3回目となる認証評価を受審しました。認証評価制度とは、国公私全ての大学が7年以内ごとに文部科学大臣の認証を受けた評価機関による第三者評価を受けることを義務付ける、学校教育法に基づく制度のことです。認証評価の目的は、①大学の質を保证する、②評価結果が公表されることにより、大学が社会による評価を受ける、③評価結果を踏まえて大学が自ら改善を図る、ことであり、組織運営や教育研究活動等の総合的な状況について評価を受けます。この認証評価の結果、本学は大学基準に適合していると認定されました。特に、評価が高かったのは、教育研究組織・環境等、学生支援、そして社会連携・社会貢献です。社会連携・社会貢献については、医学部卒業生の地域医療への貢献や看護学部における地域で働く看護職を対象としたeラーニング研修による看護実践への貢献が評価されました。COVID-19対応においても、本学附属病院及び附属さいたま医療センターにおいては、重症患者等の受け入れを行っています。また、看護学部の教員は栃木県内の保健所活動への支援を行っています。COVID-19という災難に対応していくために、地域社会の様々な機関や人々と協力し合っていくことが看護学部としても大切であると考えています。

これまでと同様な人との関わり方が難しくなっていますが、With コロナの状況下で、学生の皆さんや教職員間を含め様々な人々とのコミュニケーションを図り、創意工夫しながら看護学部の運営に努めて参りたいと思います。保護者の皆様や関係者の皆様には、今後とも本学部へのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。



コロナ禍での教育

教務委員長・教授

横山 由美



昨年度から、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の変動に適応しながら教育を進めています。目標としてきたのは、教育を止めないことです。看護学部授業は過密です。一度止めるとその分を補うために、長期休みの利用や過密な状態での教育をせざるを得なくなります。これは学生の疲弊と学びへの意欲の低下を引き起こす可能性もあると思います。本看護学部のディプロマポリシーにある改善・改革を導くための基本的な力をつけるためには、教員が伝えたそのままの言葉で覚えるのではなく自分自身で考える・調べる、など授業以外での学ぶ時間が重要です。そのためにも、教育を止めないことと、学生が学ぶ環境を整えることを主に進めてきました。

本学では看護師特定行為研修事業を行ってきた実績から、遠隔授業を行うための素地を持っていました。昨年4月に急遽、全面遠隔授業に切り替えた際にも、その素地を十分活用して授業を進めることができたと思います。教職員一丸となって、日々皆で案を出し合って対処してきました。これまでも連携はとってきましたが、さらに良い教職員チームが作れたと思っています。

また、授業方法を見直す一つの機会にもなりました。遠隔授業での伝え方、学生の反応のとりえ方などを試行錯誤することによって、これまでとは異なった視点から授業方法を模索することができたと思います。これには学生達と一緒に考えて意見をだしてくれたことが非常に大きな力となりました。現在は3密を避け、手指消毒、机など環境の消毒、マスクの使用、演習ではフェイスシールドの着用など、感染対策を徹底しながら、対面型の授業が継続できるようにしています。

新型コロナウイルス感染症拡大によって、マスクは大きく発展しました。感染予防や花粉症対策など医療的側面だけではなく、衣服や季節に合わせるなどファッションの一部にもなっています。私たちもこの危機的状況に対応することによって、新たに知恵と力をつけ、今後もより良い教育を行えるよう努力していきたいと考えています。



コロナ禍での学生生活

学生委員長・教授

大塚 公一郎



ワクチンの接種がはじまったとはいえ、まだ先行きが不透明な今回のコロナ禍ですが、本看護学部生が健康で安全、快適な大学生活を送るための支援を担当している学生委員会の立場から、日頃、感じていることを述べさせていただきます。

本看護学部では、大学のホームページ上でも公開されている学生生活の新たな指針にのっとった生活を学生の皆さんにお願いしています。そこには、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐための、一般の人々にも推奨される生活の様式だけでなく、さらに、講義や演習を受ける学部校舎、本学部生の約半数が居住している女子学生寮、そして、看護学の実習の場になっている大学附属病院が同じ構内にあるという恵まれてはいるが特殊な環境で学ぶ、ほかならぬ看護学生として守ってもらいたい項目が具体的に記載されています。

今年の入学式の後で、私は新入生からこの生活指針にしたがった生活をしてもらうことを含む誓約書をとる仕事をさせてもらいましたが、その際に苦心したのは、現在、日本でも大学生を含めて若い世代の人々が、感染拡大防止のための自粛行動をとることに同意しないことが多く問題となっていますが、本学部の生活方針のようなかなりハードルの高い行動規範を学生の皆さんに受け入れてもらうために教員としてどのようにお願いしたらよいかでした。本学部の学生は看護職になることを目指して入学してくるわけですから、人々の命と健康を守るという医療職の職業倫理というべきものは理解していると想定されます。また、新型コロナウイルスに感染した場合に、重症化しやすい患者さんが多く集まる大学病院で、患者さんのご協力のもとに実習させていただくわけですから、人にうつさない、自分もうつらないことがどれほど大切なのかも折に触れて話しています。しかし、それだけでは学生へのメッセージとしてまだ足りない気がします。そのとき、頭に浮かんだのは、コロナ禍の医療最前線で活躍する知人の姿です。先年の大震災の時に、ひどい喪失を経験した方でしたが、職業人としての誠実さと生活の自律のあり方に感心させられるのですが、それでいて自分に対する無理や他人への押しつけがましさのない自由闊達さにあふれています。社会の人々から寄せられる期待と責任、それに応えることの矜持があるようです。

幸いにして、本看護学部では、4月中旬現在まで、学生から一人の感染者も出さないで経過しています。これには、学生の皆さんの努力のみならず、保護者の皆さまや本学部の実習施設の方々のご理解、ご指導、ご支援のおかげだと思えます。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



コロナ渦での学生生活

令和2年度卒業

堀田 真世

昨年は新型コロナ感染により、私の学生生活も大きく変化しました。とくに看護総合セミナー・総合実習は、対面とオンライン両方の授業、そして最後の実習があり、とても不安と緊張のなか進みました。

対面授業の場合、先生への質問のタイミングや他の学生の反応などを確認しながら学習ができ、これまでと何ら変わらないのですが、オンラインの受講になるとそうはいきませんでした。Wi-fi環境の確認やパソコンの準備など、普段気にもしないことを準備しなければならず、慣れるまでは大変でした。しかし、オンライン授業を経験して悪かったことばかりではありません。学習するための環境や準備に関心が向いたこと、わずかですが通学時間がなくなることによって時間の管理にも気を配るようになりました。外出する機会も減りましたが、看護総合セミナーのレポート作成と国家試験対策の合間を縫って料理にも挑戦するようになりました。新型コロナがもたらした影響は、悪いことばかりではありませんでした。

年が明け、再び新型コロナによる感染拡大が続き、より一層の個人の感染対策が重要になってきました。私もこれまで以上に感染対策を徹底していきたいと思います。

4年

長澤 桃子

3年生は昨年の5月から予定されていた病棟実習が中止になり、9月から実習を行うことができたが、それまでの遠隔での学習は実習がいつできるようになるのか、このまま卒業できるのかなど不安な気持ちでいっぱいでした。遠隔での授業は、学生同士で話し合うときにはうまく伝わらないことが多くあり、遠隔で話し合うことの難しさを感じました。しかし、遠隔授業になり悪いことばかりではなかったように感じます。授業後に録画された授業をもう一度視聴して復習したりと復習しやすいという良い面もあったように感じます。

コロナウイルスによって以前と同じように学習できなく、不安なことや戸惑うことも多くあった一年でしたが、看護職を目指す学生として看護職という仕事について深く考えることができた一年でもあったと感じます。私は改めて看護師になりたいという思いが強まったため、今後も勉強に励んでいきたいと思っています。

4年

柳 花玲

今年はコロナの影響で、4月下旬から全学年でオンライン授業となりました。初めてのオンライン授業で不安な気持ちもありましたが、不安ごとには先生方が真摯に対応してくださり、対面授業と変わらずしっかりと勉強することができました。また、対面授業に比べて空いている時間が多くなったため、料理を始めてみたり、筋トレを試みたりなど、普段時間がなくてできないことにもチャレンジすることができ、充実した日々を送ることができました。友人とはなかなか会うことができなかったのは辛かったですが、オンライン電話などを活用して友達と通話などして、普段とは違う方法で友達と会話するのは新鮮で楽しかったです。今年は最終学年ですが、様々なことに挑戦していきたいです。

防災避難訓練について

看護学部では、毎年1回、防災避難訓練を実施しています。この訓練は、震度6強の地震が発生したことに端を発し、看護学部校舎の一部半壊および火災が発生したという設定で行われており、教職員による避難誘導により、看護学部校舎内にいる全学生および教職員がグラウンドに避難するという本格的な訓練となっております（雨天時は避難経路の確認のみ実施します）。避難訓練終了後には、1年生を対象に、水消火器（消火剤の代わりに水を充填した訓練用の消火器）を使用した消火器操法訓練をグラウンドにて実施しています。

これらの訓練を通して、大規模地震および火災が発生した場合の学生の避難や教職員の適切な行動並びに対処の方法について学び、防災意識の向上を図っています。



教職員による被害状況の確認



グラウンドへの避難



春山学部長による総評



消火器操法訓練



令和2年度着任挨拶

基礎看護学・助教

井上 育子



令和2年度から基礎看護学の助教として着任させて頂きました。私は高校卒業後、進学のため地元の福井県からここ自治医大に引っ越して参りました。それから約30年の間、アメリカのコロラド州に約2年半住んだ以外はずっと自治医大周辺で暮らしています。附属病院退職後は主婦としてぬくぬくと暮らしていましたが、子育てが少し落ち着いた頃から、これでは「空の巣症候群」になってしまう～!!と危機感を持ち、心理系の資格を取得して心理相談業務等を行っていました。心理も看護も対人援助職であり、他者を尊重する態度で関わり支援するといった共通点は数多くありやりがいを感じておりましたが、若かりし頃に味わった楽しい学生指導の経験を思い出し、もう一度行ってみたいという希望を持ってこの看護学部校舎に戻って参りました。心理職としての経験も生かしながら学生 みなさんに関わることができたらと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

基礎看護学・助教

甲賀 優貴



令和2年4月より基礎看護学教員として着任いたしました甲賀と申します。東北地方の出身で、着任前は総合病院の循環器科や脳卒中科、HCUなど主に内科系急性期の病棟に勤務しておりました。栃木には居住し始めて4年程経ちます。栃木に来た当初は電車の車両の長さや電車の来る頻度など驚いてばかりでしたが、最近はいよいよ栃木の生活にも慣れてきました。

自治医科大学看護学部の教育理念は高度医療と地域医療に従事できる看護職の育成が掲げられており、特徴のある大学です。地方で医療に携わっていた者としては、高度な知識を有し、それを地域に還元できる人材の育成を担うことができるということは非常に魅力的に思います。若輩者ではございますが、看護における教育や研究に邁進してまいりますので何卒よろしくお願い致します。





老年看護学・助教 小此木 百合香

令和2年5月1日付で着任いたしました。1年を振り返ると、本当にあっという間の1年でCOVID-19の影響で授業が対面から遠隔、ハイブリッド型となり、「よくわからない忙しさ」しか記憶にありません。そのような中でも後学期には期間短縮の実習が開始し、病棟師長をはじめ、臨床指導者、病棟スタッフの皆様の多大な協力を得て実習を終えることができました。実習をしてこそ得られる学びを改めて実感しました。

日本は超高齢社会となり、療養の場、家族や介護のあり様も日々、変化しています。高齢者の看護は一人ひとりの価値観や心情を受け入れ、対応する思考の柔軟性も求められます。求められる人材の育成と自身の目指す看護を見出せるよう、学生をサポートしていきます。

2021年は東日本大震災から10年という節目の年です。日常をかけがえのない1日であることを忘れずに、微力ながら一教員として看護教育に携わっていきます。



母性看護学・助教 谷田部 典子

20年以上臨床で看護師・助産師として従事していたので、私の人生設計の中に教員という職業は全くと言っていいほどありませんでしたが、色々なご縁やタイミングが重なりこちらで教員として働かせていただくことになりました。

ちょうどCOVID-19の感染拡大と重なり、前例のない授業・実習は、私はもちろん、他の先生方にとっても初めてのことだったそうです。それでも、例年通りの知識と技術を身に付けさせるため、色々なアイデアを出し合いながら教員一丸となって対応し、どうにか1年を終えることができました。そして年度末に開催されたFD研究会でそれぞれ授業や演習で活用したデバイスやアイデアなどを全教員で発表し合う場があり、私たちの工夫についても共有できました。実習期間の短縮など学生にとっても大変な1年だったと思いますが、この1年を振り返り、教員に恵まれ充実した大学であると誇りに思うようになりました。

臨床で助産師として学生を指導する経験はしていましたが、今教育する側に立つことになりました。教育する側から学生と関わることで、新鮮な感覚や考え方に刺激を受けながら、自分自身も成長していければと思います。



令和2年度オープンキャンパス

令和2年度の看護学部オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の影響により第1回を中止しましたが、第2回（11月7日）及び第3回（3月26日）を事前申込制として開催いたしました。

参加総数は396名となり、関東近県だけではなく、北は北海道から、南は四国まで、多数の学生及び保護者の方々にご参加いただきました。

「看護学部説明会」ならびに「模擬授業」では、感染予防対策として用意した、サテライト会場を含め2つの大会場に多くの参加者がありました。「看護学部説明会」では看護学部の概要、カリキュラム、学生生活、入試内容等を真剣に聞き入っていた様子で、また、「模擬授業」も大学生気分を感じながら聞いていました。

さらに新型コロナウイルス感染症の影響によって、例年、人気の「学生広場」はリモートを利用して在学生と交流し、本看護学部の特徴と魅力を具体的に伝えることができました。「学生寮案内」も学生寮内の見学を中止して、映像と写真で寮生活の魅力を伝えることができました。他にも看護学部校内施設見学、何でも相談室（健康相談含む）でも、参加者からの熱心な質問に教職員が応対し、本学についての詳細な情報を伝えることができました。

今年度のオープンキャンパスを実施するにあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました教職員、学生の皆様に心より厚く御礼申し上げます。



ラボ室見学・体験（地域看護学・地域ケアラボⅡ）



ラボ室見学・体験（母性看護学・母子ケアラボ）



ラボ室見学・体験（基礎看護学・スキルズラボ）



サテライト会場

令和 2 年度自治医科大学卒業式および学位記伝達式

令和 3 年 3 月 5 日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和 2 年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました。今年度は医学部 115 名（44 期生）、看護学部 103 名（16 期生）が本学を巣立ちました。

式典では、看護学部を代表して石山舞さんに、永井学長から卒業証書・学位記が授与された後、看護学部校舎において、学位記伝達式が執り行われました。



令和 3 年度自治医科大学入学式

令和 3 年 4 月 9 日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和 3 年度自治医科大学入学式が執り行われました。今年度は医学部 123 名（50 期生）、看護学部 105 名（20 期生）が入学し、永井学長の式辞、大石理事長の挨拶に続き、看護学部は茂呂真里奈さんが代表して誓いの言葉を読み上げました。



※卒業式および伝達式・入学式ともに、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、卒業生・新入生および教職員のみで執り行われました。

看護学部 学科目別教員一覧 (令和3年7月1日現在)

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考	
看護基礎科学	教 授	大塚 公一郎	学生委員長 学年担当アドバイザー総括	母性看護学	教 授	成田 伸	4 学年担当アドバイザー	
	准教授	倉科 智行			准教授	角川 志穂		
	准教授	平尾 温司	1 学年担当アドバイザー 2 学年担当アドバイザー		助 教	上野 知奈		
	講 師	鹿野 浩子			助 教	高嶋 里会		
	講 師	関山 友子			助 教	谷田部 典子		
基礎看護学	教 授	小原 泉	1 学年担当アドバイザー	小児看護学	教 授	横山 由美	教務委員長 3 学年担当アドバイザー	
	教 授	里光 やよい			准教授	田村 敦子		
	准教授	内堀 真弓			講 師	小西 克恵		
	講 師	石井 容子	1 学年担当アドバイザー 2 学年担当アドバイザー		成人看護学	助 教	飯島 早絵	広報委員長 2 学年担当アドバイザー
	講 師	湯山 美杉		教 授		村上 礼子		
	助 教	井上 育子		准教授		佐藤 幹代		
	助 教	甲賀 優貴	准教授	長谷川 直人				
地域看護学	教 授	春山 早苗	看護学部長	老年看護学		講 師	古島 幸江	3 学年担当アドバイザー
	教 授	塚本 友栄				助 教	遠藤 香奈	
	准教授	島田 裕子	4 学年担当アドバイザー 3 学年担当アドバイザー		助 教	工藤 理恵		
	講 師	青木 さぎ里			助 教	渡邊 賢治		
	講 師	江角 伸吾		教 授	上野 まり	国家試験対策委員長		
	助 教	舟橋 千尋	教 授	浜端 賢次				
精神看護学	教 授	永井 優子	4 学年担当アドバイザー	科総 目合	助 教		小此木 百合香	
	教 授	半澤 節子			助 教	酒井 千裕		
	講 師	石井 慎一郎		看護学 部兼務	講 師	佐々木 彩加		
	助 教	路川 達阿起			講 師	鈴木 美津枝		
					准教授	川上 勝	看護師特定行為 研修センター本務	

令和3年度年間スケジュール

前学期						後学期					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式(9日) 前学期授業開始(2日)	春季休業(4月29日～5月5日) 創立記念日(14日) 3 年次各論実習① (主に病院での実習: 21日～10月23日)	1 年次対象の理解実習(7日～11日)	4 年次総合実習(26日～8月6日) 1・2 年次定期試験(26日～30日) 4 年次定期試験(15日～19日)	夏季休業(8月11日～9月20日) 再試験(8月30日～9月1日) 4 年次選択助産学実習(23日～11月5日)	成人継続統療養実習(22日～10月25日) 2 年次日常生活援助実習・ 後学期授業開始(21日)	薬師祭(8日～10日)	防災避難訓練(1日) 3 年次各論実習② (主に地域・在宅での実習: 15日～2月18日)	冬季休業(12月24日～1月6日)		再試験(28日～1日) 1・2 年次定期試験(4日～10日)	学年末休業(12日～) 卒業式(4日)

※年間スケジュールについては5月1日現在のものであり、新型コロナウイルス感染拡大の影響により変更が生じる場合があります。

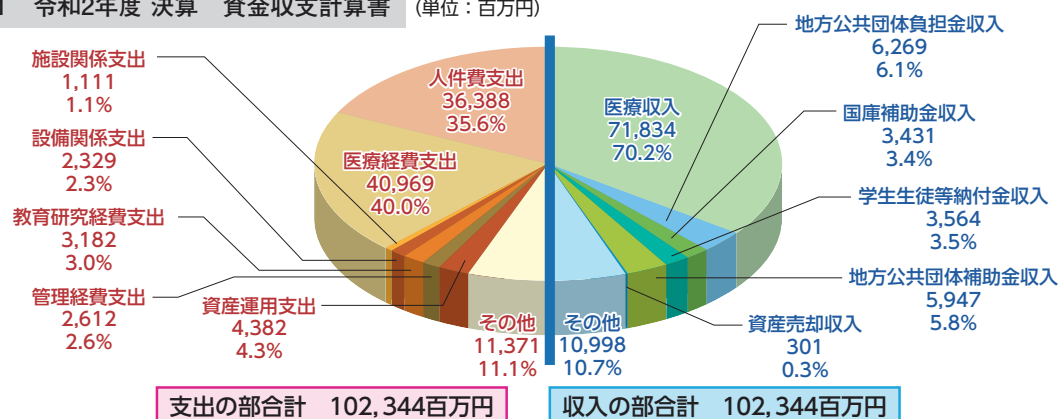
令和3年度 学校法人自治医科大学決算について

令和3年5月31日(月)に開催された理事会及び評議員会において、令和4年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

・資金収支計算書(別図1)

1年間に実際に収入又は支出した金額(現金ベース)を主として科目別に分類して表した決算書です。

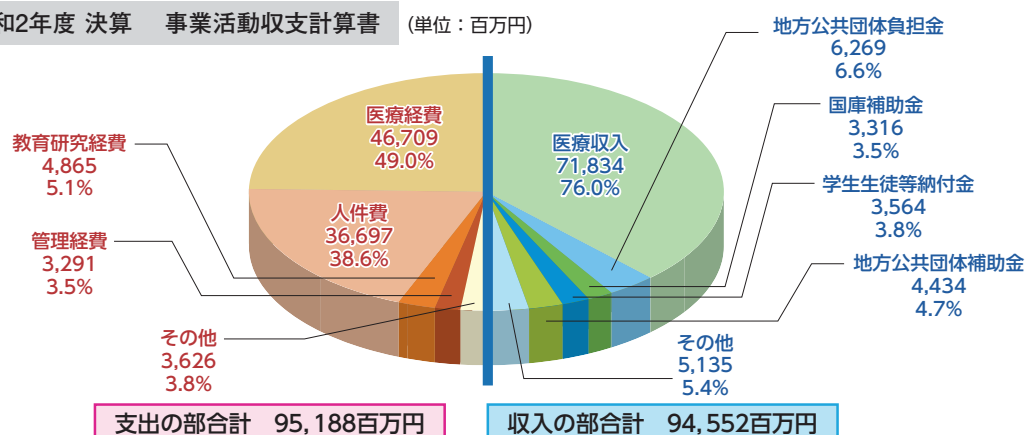
別図1 令和2年度 決算 資金収支計算書 (単位:百万円)



・事業活動収支計算書(別図2)

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

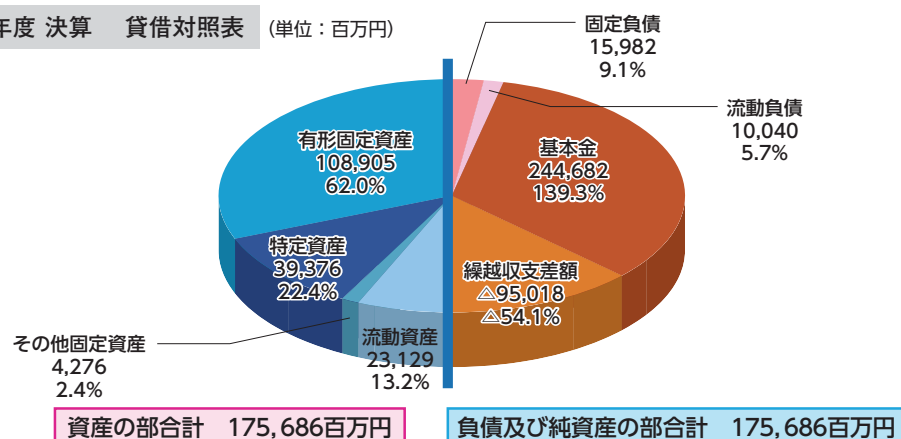
別図2 令和2年度 決算 事業活動収支計算書 (単位:百万円)



・貸借対照表(別図3)

2年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

別図3 令和2年度 決算 貸借対照表 (単位:百万円)



※財務状況等の詳細は、大学ホームページ
http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.htmlの「情報公開」でご覧になれます。



令和2年度事業の概要について（大学事業報告書より、看護学部関係抜粋）

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施した。

なお、COVID-19への対応については、学部長を議長とする看護学部新型コロナウイルス感染症対策会議を定期的に開催し、教育内容・教育方法・成績評価等についての検討、学生の学習環境の整備、教員の教育環境整備についての検討をし、教育の質の維持、適切な対策・対応を実施した。

① 学生教育に関すること

- ・これまでの看護師・保健師・助産師の国家試験における高い合格率を維持するために、1年間を通じて①教員による国家試験対策ゼミの実施、②模擬試験の実施、③少人数の学生に対する教員のサポート体制の充実に取り組んだ。
- ・COVID-19対策として、「教員による国家試験対策ゼミ」は、遠隔システム（Big Blue Button）を活用し実施した。録画をすることにより、学生は繰り返し視聴して学習することが可能となった。
- ・遠隔を活用した国家試験対策ゼミと10名の教員で小人数の学生サポートを展開しながら学習支援を実施した結果、助産師国家試験は7年連続100%、看護師国家試験、保健師国家試験は全国平均よりも高い合格率の水準を維持している。

② 学生の受け入れ・支援に関すること

- ・在校生（新入生）へのアンケート結果を評価し、ホームページの学科目紹介の更新を行った。
- ・COVID-19対策のためオープンキャンパスの日程を後学期に変更し、感染対策を徹底したうえで開催し、参加者からは好評な結果であった。
- ・オープンキャンパスの中止・延期を補填するため、看護学部校舎等の紹介動画を新たに作成しホームページ上に公開するなど、来校見学に代わる広報活動を追加して行った。
- ・相談ルームレターを定期的に発行した。また、学年担当アドバイザーなどの教育を通して看護学部及び看護学研究科の学生に対し、学業・生活・進路等の相談ができる相談ルームの存在を周知した。

② 研究に関すること

- ・附属病院看護部6件、附属さいたま医療センター看護部1件、芳賀赤十字病院4件の看護研究支援依頼に対して、担当者を決定して支援を行った。
- ・教員向けに研究ミーティングをオンラインで開催し、競争的資金獲得を含めた研究活動の促進を図った。令和3年度文部科学省科学研究費には8件の申請があった。また、引き続き間接経費により研究補助者1名を雇用し、データ集計等の作業の効率化を図った。
- ・2つの研究課題について共同研究に取り組んだが、COVID-19感染拡大により研究活動の縮小を余儀なくされた。なお、モンゴル国立医科大学とも同様の共同研究を行っており、次年度の調査実施に向けて準備を進めた。

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新しい生活様式が求められる今、自治医科大学看護学部でも様々な工夫を行っております。「with コロナ」の生活はもう少し続きそうですが、今年度も変わらず明るい看護学部の「今」をたっぷりとお届けいたしました。今後とも何卒よろしく願いいたします。
（担当：成田 伸、石井 慎一郎、スタナーズ 里杏）

ビタミンN 第18号

発行日：令和3年7月29日

発行：自治医科大学看護学部

本件に関するお問い合わせ先：

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-59-7409（看護総務課）

E-mail ksoumu@jichi.ac.jp